

# FUKUSHIKEN JOURNAL

"福祉研ジャーナル"

高齢者や障害者のための施設を専門に設計する、日比野設計+福祉施設研究所が発行するフリーペーパー。高齢者・障害者施設に関する情報や最新のプロジェクト等を紹介します。

2025  
TAKE FREE



01. エントランスと庭

## FEATURE PROJECT

### 特別養護老人ホームかなじょうず園

三重県鈴鹿市で計画が進行中の特別養護老人ホーム（120床）です。既存建物の老朽化に伴う移転建替えで、木造（一部鉄筋コンクリート造）の混構造です。三重県は木材が豊富で流通もよく、大工も多いことから木造とし、木の温かみを感じてもらえるように計画しています。居室棟は2階建、管理や地域交流スペースは平屋とし、のびやかな建築と開放的な広場が地域の核となるような施設です。冬からの着工を目指し準備中です。



02. 地域交流スペース



03. 南側居住棟ファサード



04. 食堂・共同生活室

## contents



01

### about NEW BOOK

現在制作中の福祉施設研究所の書籍についての特報！

02

### under construction report

工事が進行しているプロジェクトの現場をリポート

03

### chief 's voice

所長裏木による「時事と高齢者・障害者」

04

### projects report

進行中プロジェクト等を紹介！

## What's HIBINOSEKKEI + FUKUSHIKEN?

1972年に創業した「株式会社 日比野設計」の福祉施設設計ブランド。日比野設計+福祉施設研究所が携わった施設は全国に及ぶ。株式会社日比野設計では、他にも幼児施設専門の設計ブランド「児童の城」、幼児施設インテリア設計のブランド「KIDS DESIGN LABO」、カフェ&レストラン「2343 FOODLABO」や「2343 DEPARTMENT」、保育園「KIDS SMILE LABO」、マルシェ「ICHIGO MARCHE」を運営。施設設計と運営のノウハウを活かし、様々な事業を循環型の事業として展開している。

株式会社日比野設計 / hibinosekkei.com  
【本社】〒243-0218 神奈川県厚木市飯山南4-18-1 / 046-241-3339  
【支社】〒243-0014 神奈川県厚木市旭町1-7-3-3F / 046-230-6155



NEW  
BOOK

# 地域一番の 高齢者福祉施設の作り方

—利用者目線の施設だけが、超高齢化社会を生き延びる—

50年の実績をもとに提案する、愛される福祉施設のデザイン



超高齢化社会が現実のものとなってきた一方で、少子化には歯止めがかからず、さらに2040年には、高齢者の総数が減少していくことが確実となっている現在。高齢者福祉施設を「つくれば人が入る」は、もはや過去の話になってしまった。利用者に選ばれる、「地域で一番」の施設をつくるためには、福祉サービスはもちろんのこと、施設の建築や家具のデザインも重要。

高齢者福祉施設の設計に50年の実績を持つ私たち日比野設計福祉研でも、全国のオーナー様や福祉の現場の方々からご相談をいただくことが増えてきています。施設づくりの何よりの鍵となるのは、従来型の管理・運営がしやすいだけの、運営者目線でつくられた施設から、利用者目線の「時間を過ごしたい」施設へとドラスチックな変換を果たすこと。そのために、どんなことを考えるべきなのか?多くのプロジェクトに関わってきた福祉研としてアドバイスできるいくつかのことを書籍にまとめました。さらに識者との対談や、運営に成功なさっている施設への取材なども収録しています。“地域で一番”を目指して、施設の改修や新設を考えるすべての方へ送る書籍です。

## 01 設計者視点で考える これからの 高齢者福祉施設

従来の多くの高齢者福祉施設が、病院を思わせる内外観なのは一体どうしてなのでしょう?病院はそこで体力を回復して普段の暮らしに戻って行く場所であるのに対して、高齢者福祉施設の入居者の大半はそこに暮らします。これからの中の“地域一番”的施設は、長い時間を暮らす場所として考えていくべき。どんな素材が好ましいか、食の空間をどのように作るべきか……。この分野に確かな実績を持つ日比野設計福祉研が解説します。

## 02 地域をリードする 高齢者福祉施設の オーナーとの対談

私たち日比野設計福祉研では、これまで、全国に約50の高齢者福祉施設を設計してきました。稼働率が高く、入居待ちのリストもあるような“地域一番”的施設のオーナーたちは、いずれも明確なビジョンを持つ方々。そのビジョンが施設の建物(ハードウェア)につながり、そこで行われる福祉サービス(ソフトウェア)にもつながっているからこそ、愛される施設になるのだと実感しています。本書籍では、それぞれに個性的な3法人のオーナーたちとの座談会を行いました。彼らの力強い話には、地域に愛される施設づくりのヒントがたくさんちらばっています。

### 【収録の座談会】

- ①「地域のロールモデルになる先進的な福祉施設を」  
社会福祉法人 天年会・玉田香介氏
- ②「地域インフラとしての福祉施設を考える」  
社会福祉法人 相模福祉村・赤間源太郎氏
- ③「一般企業の利点を活かした、  
高齢者の“やりたい”を実現する施設」  
株式会社 K・コーポレーション・館浦圭氏

## 03 海外の高齢者 福祉施設レポート

福祉研では、国内外の高齢者・障害者福祉施設を数多く訪問してきました。福祉への考え方は国によってさまざま。その中から、今後の日本で求められる福祉施設の最適解を探しています。本書籍には2025年のレポートを収録します。



## 刊行記念イベント決定!

書籍『地域一番の高齢者福祉施設のつくり方』発行を記念して、日比野設計福祉研が設計を行ったデイサービスセンター「ゆかり」春日部センターで、刊行記念イベントを行います。同センターの運営を行う株式会社K・コーポレーション代表取締役の館浦圭氏と日比野設計福祉研の座談会や、設計担当者による施設説明など、高齢者福祉に関する多くの方とて実りある時間となるはず。ぜひお越しください。

館浦圭（たてうら・けい）

株式会社K・コーポレーション代表取締役。理学療法士。2008年にK・コーポレーションを設立。順調に事業を拡大し、現在は埼玉県春日部市、千葉県野田市に5カ所のデイサービス、ショートステイや時短デイサービスを展開。いずれの施設も高い稼働率を誇る。一般法人経営による施設運営の手腕には業界からの信頼も築く、「介護ケアパートナーズ」代表取締役エグゼクティブコンサルタントとして他施設のコンサルティングも手がけている。「利用者様が夜中に一人でトイレに行けるようになる」を具体的な目標に掲げ、現在も自ら現場に立つ。

## 2026年冬 開催予定!

会場 | 縁「ゆかり」春日部センター  
(埼玉県春日部市永沼2158-1)

参加特典 | 書籍『地域で一番の  
高齢者福祉施設の作り方』つき

プログラム | 施設見学  
設計のコンセプト/手法  
館浦社長のご講演他

※イベント概要は変更することがございます。福祉研のHP等でご確認ください。

# ただいま現場進行中

## 現場の“いま”をお伝え

### 障害者支援施設たんぽぽの家・特別養護老人ホーム柴胡苑

#### 鉄筋工事

相模原市中央区で進めている障害者施設と高齢者施設の複合施設の現場です。建物の面積が広いため、現場は3つの工区に分けられ、最も進んでいる1工区においては鉄筋工事が進んでいます。鉄筋のサイズや本数はコンクリートの中に入り、最終的には見えなくなるのですが、建物を支える構造の最も重要な部分となります。鉄筋の端部の納め方や本数の考え方、定着長さ等、現場の組み立て段階ではかなり細かい作業になるため、間違いが無いように事前に鉄筋工事業者さんと打合せを行います。図面に対しての質問や、図面では表現しきれていない部分についての納ま方など、設計者が意図する内容を伝え、鉄筋を組み立てる職人さんの考え方も含めてすり合わせを行いました。実際にはコンクリートを打設する前に、施工者や設計者の検査を行い、図面との整合性を確認していきます。9月からはいよいよコンクリート打設も始まっています。



### 障害者支援施設北野学園

#### 植栽工事

外構工事が始まっていますが、先行している中庭の様子を少しだけお伝えします。建物同様に外構（庭）にもコンセプトを大切にしています。外構全体では「出会いの庭」、「ふれあいの庭」、「ごろごろの庭」などを計画していますが、居室の窓先と中庭は見せる「四季の庭」としています。今回植えたのはイロハモミジ、ナツハゼ、イヌ、クロマツ、コバンモチ、エゴノキ、シロダモ、ジューンベリー、ブルーベリー、ハクサンボク、ヒラドツツジ、アオダモソ、メイヨシノ、ユズリハ、と常緑も落葉も混じり、実のなる木々もあり様々。工事中にはあんなに無機質だった中庭にどんどん植栽と芝生が入りぐっと雰囲気がよくなりました！さっそく小鳥や蝶、トンボも飛んできて生命を感じたり、やはり木々があることの豊かさを感じます。利用者さんも落ち葉拾いや水やりなどのメンテナンスもはじめてくれています。この庭の存在で生活に潤いができるとうれしいです。



私はまだ待機はあります、今後は利用者が施設を選ぶ時代です。高齢者自身が住みたいと思えるのか、ご家族がそこに預けたいと思えるのかという事はこの時代の流れと共に重要な事になっていくのです。介護施設は稼働率を維持する事が運営において最も注意すべきことです。この稼働率が落ちるとたちまち運営が難しくなります。施設整備の費用をかけない魅力ある施設創りをしない生き残れないといふ事が言えます。施設整備に費用をかけずに魅力ある空間を整備する事は簡単な事ではありませんが、まずは利用者目線を第一に考えてみるという事が近道なのかも知れません、費用対効果という事を意識し、選ばれる施設創りを常に研究していくべきだと思います。

私はまだ待機はあります、今後は利用者が施設を選ぶ時代です。高齢者自身が住みたいと思えるのか、ご家族がそこに預けたいと思えるのかという事はこの時代の流れと共に重要な事になっていくのです。介護施設は稼働率を維持する事が運営において最も注意すべきことです。この稼働率が落ちるとたちまち運営が難しくなります。施設整備の費用をかけない魅力ある施設創りをしない生き残れないといふ事が言えます。施設整備に費用をかけずに魅力ある空間を整備する事は簡単な事ではありませんが、まずは利用者目線を第一に考えてみるという事が近道なのかも知れません、費用対効果という事を意識し、選ばれる施設創りを常に研究していくべきだと思います。

「坪200万くらいはかかりますね~」私達の仕事の始まりはそんな会話から始まります、いつも過言ではないぐらい、まずは建設コストをどの様に考えているか、というのは今の時代とても重要なポイントです。それ以前の事かもしれません、皆さんも買い物に行くと物の品質と値段とは必ず見て購入しますよね。費用対効果というのはそういうものだと思います。建設業界の中では建物の建設費を坪当たりの単価で表現する事があります。それが冒頭の言葉なんです。事業計画を策定するにあたり重要な事ですが、事業として安定した運営が出来なければ、やはり高齢者の生活も豊かなものになるはずがありません。今の時代燃料費や食料品など生活する上で必要な費用は全て値上がりしている状況です。もちろんですがそれに比例して建設費も高騰しているわけですが、どの業界もそうですが人材不足という事も建設費高騰の要因の一つに考えられます。

TOPIC  
価格高騰時代

# PROJECTS REPORT

私達は空間の雰囲気や施設の見え方、デザインなどから、快適な生活をする上で大切な要素だと考えていました。現在の介護機器はデザインという側面から高齢の方々が、本当に気持ちよく利用できているかは疑問です。私達のハード創りで拘り続けている部分な  
のですが、そこには必ず介護機器が存在してきます。生活空間において快適なデザインを実現するためには、介護機器においても空間にあつたデザインや色合いを選定したいのですが、なかなか良いデザインのものはありません。機能面についての進化の半面、デザイン性についての追求が遅れてしまつていて感じるのです。

高齢の方々がより快適な生活を維持するために、私達もそうした介護機器を含めたデザインを見つめなおし、新たな時代の選ばれる高齢者の住まいづくりに力を入れていく必要があると感じました。

介護関連機器等の情報をインプットしていくことはとても大切な事です。出展されている企業で多いのが、介護業務を支援するソフトウェアやその周辺機器関連です。昨今の介護人材不足を受けて力を入れている部分ですが、介護現場の仕事を出来る限り効率化し、本質となる高齢者へのサービスの質の向上につなげる事が今後のＩＣＴ化のポイントとなります。

特に介護度が高い高齢者の住まいとなる特別養護老人ホーム等の施設においては介護ベッドや機械浴槽といったおなじみの介護機器について、利用者の需要に対応した機能や介護スタッフの効率や負担軽減につなげる工夫など、機能面の進化はここ数年で急速に進化している感じであります。



介護業界の最新機器事情

TOPIC  
mini

介護機器視察

神奈川県相模原市で進めている、障害者施設と高齢者施設の複合施設です。老朽化による建替えと同時に地域とのかかわりを重視し、2つの施設を複合化する事で高齢者、障害者と地域を結ぶ地域の拠点となります。生活するプライベートゾーンと1階部分のパブリックゾーンを明確にし、敷地の入り口付近に木造平屋の別棟部分を配置することで、地域の方々が立ち寄りやすい外部空間として散策路を介して建物にアプローチできるよう計画しています。



## 障害者支援施設たんぽぽの家

TOPIC  
mini

進行中プロジェクト

昨年より工事が始まつていた福岡県久留米市 の障害者支援施設の建替計画。 建物と中庭はほぼ出来上がり、検査と引越 しを残している状況です。引越し終われば 既存建物を解体その後、よいよ外構工事に 着手します。利用者の活動の場として、地 域へ開かれた広場として整備し、公園のよう なスペースになります。開かれた広場が地域 との繋がりを産み、関係性を育み、そこに無 くてはならない存在に育つていくと思います。

茨城県つくばみらい市で進めている発達害の子ども達の児童発達支援センターの新工事です。県道に面した市街化調整区域となつており周辺には農地が広がつてゐる豊かな環境です。就学前の子どもたちにとって様々な経験が大切な時期ですが、敷地の自然豊かな環境を活かし、前庭を介して設にアプローチする計画とし、極力自然にされることも内部空間においても子ども達さまざまな体験ができる施設となつていてます。発達障害の子ども達が活き活きと活動できる場所となり、更なる成長につながる施になればと考えております。



日々更新中！  
最新情報は  
**HP、SNSを  
チェック！**

福祉施設研究所



福祉施設研究所



福祉施設研究所



作つたお菓子は、友人や会社の人に渡してしまいます。「おいしい」「また食べたみたい」と言つてもうらえると、本当に嬉しくなります。食べた人の笑顔を見ると自分の思いが伝わったような気がして、やつてよかつたと感じます。これからも、自分の手でかたちにしながら、お菓子作りという小さな創作の時間を楽しんでいきたいです。想像して、時間が楽しくなる。その満足感こそが、私にとって一番の楽しみです。



現在乗っているヘルスパは約二十年前のモデルで単気筒、2ストローク。現代のバイクと違つて少々面倒なのでですが、これがなんとも味わい深いんですよ。電子制御され過ぎたスムーズな乗り物にはない車体との対話でも言いましょうか。

チョークを引っ張り、キックでのエンジン始動。ガソリンの臭いとエンジンの音。跨つている時のエンジンの騒動、ギアエンジンの時の振動。すべてが楽しいのです。息子には純粹にバイクに乗る楽しさと、手のかかるモノやコトの中にある楽しさを体感して欲いと思っています。

「お菓子作り」という  
かたちにする楽しみ

バイクレビュー

**STAFF  
NOTE**

設計スタッフ  
まくまく

PAPA'S  
DIARY

福祉施設研究所 スタッフの近況